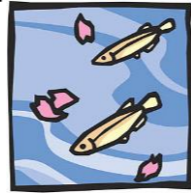


はじめの一歩



新潟県立小出特別支援学校進路指導部
NO. 116 (令和6年12月20日)

高等部後期現場実習・校内実習

高等部では、10月28日(月)から11月22日(金)の4週間、現場実習・校内実習を行いました。今回もたくさんの事業所様から御協力いただきありがとうございました。

＜後期現場実習協力事業所＞

(株)カイセ工業 (株)マルイ堀之内店 (株)諸長 (株)小玉屋 魚沼市立広神中学校
平田バルブ工業(株)◎ 塩沢リネンサプライ(株) 魚沼更生園 やいろの里 なないろ
湯之谷工芸 ひろかみ工芸 堀之内工芸 かけはし まきはたの里 工房とんとん
あめのちはれ ひかり工房 新潟県あけぼの園 ◎は新規実習協力事業所

保護者の皆様からの実習アンケートより、「実習を通して見られたお子さんの成長」、「保護者様が学んだことや感じたこと」を御紹介します。



【お子さんにどんな成長が見られましたか】

- ・知らないところでも固まらず行動できたようで安心した。
- ・普段の授業と実習のある日とで、家では変わりなく過ごすことができた。実習の方が、日毎に変わらないので、本人は安心している部分があったのではと思う。
- ・現場実習に休まずに行けてすごいと思った。
- ・学校での経験を生かした実習であり、とても前向きになり明るくなった。自信になったと思う。
- ・校内実習でも自分から報告できるようになったようで、成長を感じた。
- ・次の日に必要な物をしっかり自分で確認していた。
- ・一人で公共交通機関を利用できた。
- ・自分で時間を確認し、ちょうどよいタイミングで通勤できた。
- ・慣れない立ち仕事で前半は足が疲れたようであったが、休む前にストレッチを行う姿に感動した。
- ・今までより色々な人と関わることができるようになった。促されてもできなかったことを、今回は聞き入れて行動することができた。
- ・周りを気にすることなく集中して作業に取り組めることが増えた。
- ・大変な作業もあったが、根気強く最後まで続けることができた。
- ・作業を順調に進めることができたようでうれしかった。
- ・気持ちを切り替えながら、自分で決めたことを最後までやり抜いた姿に成長を感じた。
- ・以前よりも心身の余裕が見られた。疲れも少なく現場の皆さんのお名前も覚え、よくなじんでいた。適応する力が付いた。
- ・一連の作業を任せてもらい、それを達成しようという意欲を感じた。忙しくて大変だと言っていたが、楽しいようでうれしく思う。
- ・本人にとって苦手なことでも嫌がらずにやれたことがよかった。
- ・前期現場実習よりも責任感が出た気がする。
- ・集中する力が身に付いてきた。
- ・以前は自分の実習であってもどこか他人事のような感じが見られたが、今回は将来を見据えた行動をとっていた。自分から動くことが増え、1年間でこれほど成長するのかとうれしく思っている。

【保護者の方が学んだことや感じたこと】

- ・施設が変わっても、今までのように生活できそうだということが分かった。
- ・親が思う卒業後と実際の施設の状況、そして今の本人の状態などを合わせて考えると、どこで折り合いを付けるかは難しい。早めに動いた方がいいと思っている。
- ・本人が知らなかった得意・不得意を肌で感じられたことで傷ついたり、今まで体験しなかったこともあったりしたが、毎日学びながら身に付いていっているのが分かり、とてもよかった。
- ・最初は仕事ができるか不安だったが、続けていくうちに作業スピードがアップしたり、いつもより早起きしたり、まだまだ伸びしろがあると感じた。
- ・卒業後、入れるところがあるか心配になった。
- ・作業内容など本人の得意・苦手はあると思うが、作業所の雰囲気や職員・利用者の方との関係が一番重要だと感じた。
- ・どうしても足りないところを直すようしつこく話してしまうが、褒めることでよい部分はさらによくなり、劣っている部分はよい部分に引っ張られて改善できることに気づいた。
- ・挨拶と返事が大変素晴らしいと褒めていただいた。社会人として大事なことが普通にできることは信用にもつながると感じた。
- ・これから様々な人と関わりながら生きていく上で、挨拶が大切だと改めて感じた。
- ・物事にもよるが、繰り返すことでできることが増える。
- ・体調や気分が優れないときは、無理はさせずに様子を見て作業に取組ませることによって、その作業が嫌にならずにできると思った。
- ・目標をもたせ、やる気を維持し続けることの難しさを改めて感じた。
- ・本人がグループホームに興味をもった。いつか親離れ・子離れすることに実感がわいた。
- ・周りの協力があつての自立ということを改めて認識した。
- ・実習先の御協力に感謝です。実習回数が増えて、本人の実力より難しい課題を与えてくださったたり、レベルアップにチャレンジさせてもらったりして、仕事への意欲を高めてもらった。
- ・実習先で落ち着いて過ごせたのは、集団生活のおかげだと思い、ありがたく感じた。
- ・どの企業も人材不足だと口にするが、障害者雇用となると難しそう。そこを踏まえ、本人の希望する企業の受入れなど、相談しながら進めていくことが必要なんだと知り、勉強になった。

次に、現場実習先からのアンケートより、「生徒の様子から感じたこと」、「生徒に求めたいこと」、「保護者の対応で感じたこと、家庭に求めたいこと」を御紹介します。

【生徒の様子から感じたこと（実習協力事業所より）】

- ・挨拶や返事がよくできとても好印象であった。
- ・事前に作業やバスに乗る練習をしてきたとのことで、仕事への意欲がありとても助かった。
- ・学校や家庭で実習への心構えをしっかりと指導していると感じた。(2)
- ・「卒業したら社会人」という指導は一貫して行っていたらいいと思う。その中で、身だしなみ・返事・挨拶は重要であると感じている。
- ・仕事を頑張ろうとする気持ちはとても感じる。
- ・裏表がなく誰に対しても誠実な態度で接する姿が大変立派だと思った。
- ・指示や業務内容の把握も的確で信頼できるパートナーといえる存在だった。

【生徒に求めたいこと（実習協力事業所より）】

- ・長い時間集中できる力
- ・少しずつ環境に慣れる。
- ・積極性
- ・体力や筋力
- ・作業のスピードや判断する力
- ・集団の中でのコミュニケーション
- ・何の目的で実習に来るのか理解した上で実習に来てもらいたい。
- ・苦手なことでも時間をかけて取り組むことが大切。
- ・相手が声を掛けてくれたその気遣いや感謝の気持ちを忘れずに応答する。

【保護者の対応で感じたこと、家庭に求めたいこと（実習協力事業所より）】

- ・家庭での様子や実習について話していることを教えてほしい（訪問時や実習ノートを通して）。
- ・事前をお願いした持ち物の準備を確実にしてもらいたい。本人が困る状況を作らないため、実習に集中できる環境作りのために。
- ・自宅でしっかり休めることで、毎日元気に活動に取り組めた。
- ・実習ノートに細かくコメントしていただき、温かく見守っている点が素晴らしいと思った。

～進路指導主事よりひとこと～

保護者の皆様には、実習ノートの御記入、お弁当作りや体調管理等御協力いただきありがとうございました。また、お子様の実習先へ見学に行ってください、その様子を御家庭と学校とで共有できたことをありがたく思います。生徒には、いつも「実習だけ頑張ればよいのではない。普段の学習で学んだことを実習の場で発揮し、実習でうまくいかなかったところや課題をまた学校の授業等で改善していく。この繰り返しだよ。」と話しています。今回の実習での成長をここで止めずに、積み重ねていってほしいと願います。



中学部校内実習

中学部では、11月11日(月)から15日(金)の5日間、校内実習を行い、クラフトバンドの製品作り(ランチョンマット、かご、箸置き)に取り組みました。クラフトバンドを裂く、切る、編むなどの工程を手分けして、協力して製品を完成させました。また、作業を通して、「挨拶・報告をする」「姿勢・態度に気をつける」「集中して仕事をする」「時間を守って行動する」力をつけることがねらいでした。今回の校内実習を経て、普段の授業や生活の中でも挨拶がよくなったりしっかり報告をしたりする態度が身に付いてきました。一方で、集中力が途切れてしまい、切る長さがそろわなくなってしまうこともありました。今後は、丁寧さ・正確さを保ちつつ、スピードを上げていくことも目指します。



～御案内～

<進路説明会>

- 日時 令和7年1月24日(金) 午後2時15分から3時まで(受付 午後2時より)
- 会場 小出特別支援学校 音楽室
- 対象 高等部1, 2年生の保護者
- 内容 進路決定までの流れ、進路実現に向けた取り組み

※3学期には高等部1, 2年生を対象に後期進路希望調査があります。また、今年度中に来年度の前期実習希望調査も行います。ぜひ、多くの方に参加していただきたいと思います。

～教職員研修～

<地域の事業所見学>

教職員研修として、8月29日(木)に地域の事業所見学を行いました。午前中は、テーブルマーク株式会社、株式会社栄工舎、サトウ産業株式会社、午後は、堀之内工芸、六花園、グループホームを見学しました。作業内容や現場の様子を知り、働くため、生活するために必要な力を確認しました。参加した職員からは、「施設の利用者の方を見て、児童生徒の将来を想像することができた。」「スピードという点で高等部に足りていない。丁寧さや正確さはもちろん大事だが、その次の段階の効率やスピードにも目を向けさせたい。」という感想がありました。現場を知り、児童生徒の卒業後の姿を考える有意義な研修となりました。



【サトウ産業株式会社】

～支援機関との連携～

<福祉関係者向け学校見学会>

12月3日(火)、高等部生徒の居住地の福祉関係者の方を対象に学校見学会を開催し、高等部の「性の指導」の授業を参観していただきました。また、情報交換を行い貴重な御意見をいただきました。その一部を御紹介いたします。

- ・学校卒業後は、大勢の中の一人となり、職員の目の届かない所でトラブルが起こってしまう。
- ・学校では手厚い支援を受けられるが、卒業したら支援が薄くなる。よって、できない、困っている等自分から相談・報告する伝える力が重要である。
- ・SNS(性情報)との付き合い方、障がい者専用出会い系アプリがありトラブルが出始めている。学校卒業後の進路先で、学校で学んできたことを生かせるような環境作りができるように努力していきたい。また、家庭との連携が大事。
- ・今回の授業を、性について学んでいない大人の方の参考にしていきたい。
- ・知的障害のある生徒に対して、性教育、性に関する話題は支援者側が消極的になりがちだが、男女混合で踏み込んだ話をしている、大人の利用者の方にも生かしていきたいと思った。

～最後に～

特別支援学校の実習受入れに御協力いただいた県内の事業所を対象に、意識調査を行いました。「仕事・活動に関わることとして、必要なもの・求めたいもの」は、福祉事業所、企業ともに「意欲」が第一位でした。小学部段階から、少し難しそうでもやってみて成功経験を積み上げていくことや、自分の役割(お手伝い)を果たし、喜ばれ、他者の役に立つという気持ちを育てていくことが「意欲」につながっていくのだと思います。家庭と学校とで協力しながら、子どもたちの「意欲」を育てていきたいですね。



当校のホームページを是非、御覧ください。 URL <http://www.koide-tk.nein.ed.jp/>

お問合せ等がございましたら、進路指導部まで御連絡ください。

新潟県立小出特別支援学校 進路指導部 TEL 025-792-5412